

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業

2021年度 実施報告



社会福祉法人 全国社会福祉協議会

国際社会福祉基金委員会

はじめに



全国社会福祉協議会・国際社会福祉基金委員会は、1997（平成9）年から毎年、アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動を支援する「修了生福祉活動助成事業」を実施しています。修了生の活動を通じて各国の福祉の向上に寄与することを志し、2021（令和3）年度までに8か国延べ194団体に約5,760万円を助成しました。

各国で取り組まれてきた福祉活動は、ホームレス状態にある家庭やストリートチルドレンの支援、障害者の起業支援、虐待を受けた女性や子どもへの支援など多岐に渡ります。過去には、触法少年などへの職業・生活訓練、伝染病の予防活動、自然災害で被災した家庭の支援などもありました。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の長期的な流行による心理的・社会的影響に立ち向かう事業が多く見られました。感染拡大の影響を踏まえて活動内容を充実させた事業や、支援先での感染発生により、支援対象や事業内容の一部を変更した事業もありました。なかには、オンラインやSNSを活用するなど、創意工夫を凝らしながら、修了生たちが協力して取り組んだ活動もありました。

このような2021年度に助成を行った5か国・10件の事業について、修了生たちからのレポートをもとにご報告いたします。

本事業を実施するにあたり、長年ご支援いただいております、公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、そして国際交流・支援活動会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会
委員長 湯川 智美

目次 contents

※氏名は敬称略、()内は呼称

はじめに	1
事業実施報告	3
The Philippines フィリピン	Imelda A. Macaraig (イメルダ) 4 『地域に根ざしたプログラムを通じた コミュニティの組織化とその影響の評価研究』
	Ena Marie Monter (エナ) 8 『新型コロナウイルスの影響を受けた家族のエンパワメント ～対話によるストレス軽減、金融知識の提供、住居支援等～』
Thailand タイ	Supha-R-Pha Ongsakul (オンサクル) 14 『オンライン学習を通じた高齢者およびその介護者の生活の質の向上』
	Ratjai Adjayutpokin (ラットジャイ) 18 『ジェンダーに基づく暴力の予防・対処を目的とした保護委員会の設立』
	Wilasinee Chaepae (ウィラー) 22 『コロナ禍でのコミュニティにおける子どもたちや住民のための健康促進』
Malaysia マレーシア	Khor Ai-Na (アイナ) 28 『知的障害者のための家内織物プロジェクト』
Sri Lanka スリランカ	Mahaladuwe Nandaratanana (ナンダ) 34 『孤児院「少年の家」の運営』
Indonesia インドネシア	Yayat Hidayat (ヤヤット) 40 『所得創出とソーシャルサービスの提供および 子どもたち／成人／高齢者の健康増進』
	Nandang Noor Rachmat. H (ナンダン) 44 『第2回コミュニティ／高齢者／障害者のための 新型コロナウイルス予防プログラム』
	Yuni Kurniyatiningsih (ユニカ) 48 『職場での新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた 労働安全衛生 (OSH) 研修』
資料	54

事業実施報告

地域に根ざしたプログラムを通じた コミュニティの組織化とその影響の評価研究

The Philippines / フィリピン



Imelda A. Macaraig イメルダ (13期)
セント・メアリー大学 コミュニティサービスセンター

2017年から5か年のプロジェクトとして、ソーシャルワーカーが地域住民とともに生活改善のためのプログラムを実施してきました。本助成事業では、生計、廃棄物処理、災害準備についての研修やセミナーを実施し、プログラムの評価を行いました。

イメルダさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第13期 (1996年3月来日)
研修先	くず葉学園 (精神薄弱者更生施設)、三愛荘 (精神薄弱者更生施設)、合掌苑 (特別養護老人ホーム)、鎌倉保育園 (養護施設)、黒松内つくし園 (養護施設)
フォローアップ研修	期間：2012年12月13日～25日 研修先：なぎさ和楽苑 (特別養護老人ホーム)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

帰国後は地域開発にかかる研究者、ソーシャルワーカーとして活動しています。2013年には、全社協が実施したフィリピン台風の被災地支援にも地元リエゾンとして協力いただきました。現在はセント・メアリー大学に所属し、学生に社会福祉を教えながら、地域開発にかかる研修や活動、コロナの影響を受けた大学生への教育支援等も行っています。また、フィリピン社会省に承認された「登録ソーシャルワーカー連合」の地区リーダーを務め、オンラインでの心理社会的サポートを支援しています。



学生たちとのコミュニティワーク



地域での活動開始前の説明

活動地の状況・課題

活動地は、マニラ首都圏の東に位置するリサール州ロドリゲスにあるパロサピス・ロワン地区です。対象コミュニティの人びとの多くは運搬、工事、野菜販売、ゴミあさりを収入源としてその日暮らしをしており、「貧困」が問題となっています。



母親を対象とした生計に関するミーティング



首都・活動地：
マニラ
(リサール州ロドリゲス)

事業の目的

技能や生計の訓練によってコミュニティの人びとが収入を維持すること、人びとの協力と参加によってコミュニティ全体を改善・発展させることが本事業の目的です。

本事業は2017年に始動し、2017・2018年度にも本助成を受けています。最終年度となる2021年度は、これまでに実施したサービスおよびプログラムがコミュニティと地域住民に与えた影響を評価する研究も実施しました。

事業の成果

- 研修、セミナー、その他の活動を通して関わったコミュニティの情報とニーズ評価を更新することができました。
- 生計プログラムにより、参加者の所得が向上し、コロナ禍でも継続的に収入を得ることができました。また、参加者が陶器づくりに関する新しい技術を身につけたことで、所得創出の支援を行うベンチャー企業が関心をもつようになりました。
- 廃棄物管理と災害準備活動についてのセミナーは、コミュニティ全体の洪水を減らし、衛生向上につながりました。
- 評価研究により、これらのプログラムはコミュニティの人びとをエンパワメントする（一人ひとりが本来もつ力を発揮し、自らの意思決定により自発的に行動するよう働きかける）のに十分であり、今後もプログラムとサービスを継続すべきであることがわかりました。



廃棄物管理と清掃活動



データ収集

2021年4月～5月

コミュニティの最新情報についてオンライン／対面による評価

コミュニティについての情報を集めました。そして、集めたデータを確認するために、コミュニティ・リーダーとのグループ・ディスカッションを行いました。



2021年5月～10月

リーダーシップ研修のフォローアップとセミナー

コミュニティリーダーたちは、例えば、災害が発生した場合に、子どもたちやその家族などコミュニティの人びとの安全を確保します。

新しいリーダーたちがコミュニティを率いて、福祉の発展につながる活動を展開していくことをめざし、リーダーシップ研修のフォローアップとセミナーを実施しました。



2021年6月～11月

生計についてのセミナーの最終段階：陶器づくり

これまで生計技術の向上をめざしたセミナーやトレーニングを実施してきました。その最終段階として、陶器づくりを習得し、収入源とするためのセミナーを実施しました。



2021年8月～12月

廃棄物管理および災害準備活動についてのセミナーの最終段階

2021年12月～2022年3月

プロジェクトの評価研究

プログラムやサービスが地域の人びとの生活に与えた影響を査定するため、以下の調査研究を行いました。

① アンケート調査

- A) 年齢、性別、学歴などの回答者情報の収集
- B) 学習効果についての5段階評価

② フォーカス・グループ・ディスカッション

若年層と中年層に分けて、プログラムやサービスが地域の人びとの生活に与えた影響について議論を行い、以下のような意見が聞かれました。

〈若年層〉

- 自分たちの才能を見出し、自らの仕事に自信をもった。
- 社会福祉分野の理学士号（理系の四年制大学を卒業すると得られる学位）の取得をめざすようになった。

〈中年層〉

- チームとして決定し、他人の意見をよく聴くことの大切さを学んだ。
- 若年層の人びとを以前より支援するようになった。

今後の活動・展望

- 調査結果およびコミュニティの人びとやリーダーからの提案によると、コミュニティの持続可能性と発展のために、依然として支援が必要な分野もあります。
- しかし、このコミュニティには、研修を受け能力のあるリーダーが育ち、生計プロジェクトを継続できる働き手がいる、人びとの参加が約束されたコミュニティへと変化しました。

収支報告

全体事業額：668,588円

助成額：313,894円

<主な使途>

- 評価活動、セミナー開催にかかる経費
(講師謝金、交通費、資料印刷費)

<収入>

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	313,894	
自己資金	354,694	
合計	668,588	

<支出>

項目	金額(円)	内訳
コミュニティの最新情報評価	96,000	印刷費 24,000 参加者管理・通信費 12,000 お茶代 24,000 交通費 16,800 講師謝礼 19,200
リーダーシップ研修・セミナー	120,000	印刷費 24,000 参加者管理・通信費 12,000 お茶代 36,000 交通費 25,200 講師謝礼 22,800
生計セミナー：陶器づくり	156,000	材料費 26,400 参加者管理・通信費 14,400 お茶代 57,600 交通費 33,600 講師謝礼 24,000
廃棄物マネジメント	24,000	清掃用品 24,000
プロジェクト評価	272,588	資料費・印刷費 85,894 交通費 50,400 研究者謝金 136,294
合計	668,588	

注) フィリピンペソ (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 フィリピンペソ ≒ 2.40 円 (送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



新型コロナウイルスの影響を受けた家族のエンパワメント ～対話によるストレス軽減、金融知識の提供、住居支援等～

The Philippines / フィリピン



Ena Marie Monter エナ (34期)

バハイ・トゥルヤン財団

財団のシェルターで一時的に支援を受けている子どもたちと家族を対象に、対話を通じてストレス軽減、金融に関する知識提供、住居支援等を行い、家族離散の予防、生計手段の獲得をめざす事業です。

エナさんの活動紹介

<専門分野> 児童福祉

<日本での研修>

期	第34期 (2017年3月来日)
研修先	至誠学舎立川 (児童養護施設、他) 仙台キリスト教育児院 (児童養護施設、他)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

所属するバハイ・トゥルヤン財団は、ネグレクトや虐待、人身売買、児童労働搾取などの被害に遭った子どもたち、孤児たちを支援しており、シェルターの運営や居場所づくり等の活動を行う団体です。そこでソーシャルワーカーとして、子どもたちへのケースワーク、警察や福祉施設と協力した支援、子どもたちに癒しを与える活動の計画を担当しています。

コロナ禍では、収入がないうえにシェルターを利用できないホームレスの家族に対し、週1回食料支援を行いました。2020年3月から2021年1月までに、7,388セットを配布しました。その他、家を借りるための資本金の支援も行いました。



若者への自立生活プログラム



銀行との連携



コロナ禍での食料の配布

活動地の状況・課題

活動地は首都マニラです。バハイ・トゥルヤン財団は、子どもへの暴力や虐待の対応・防止を目的として、ホームレス状態にある子どもや家族に、生活や教育の支援を行っています。家族関係の修復を図ろうとする人たちが暴力から離れた子どもたちが、財団のシェルターに身を寄せています。



ヤクルト社によるヤクルト販売セミナー (2019 年度助成事業)

新型コロナの流行により、その日暮らしの生活をしてきた低所得者層の家族は、経済的に大きく困窮しました。また、経済面にとどまらず、心理的な混乱ももたらされました。親のストレスは家族の離散や暴力につながりかねません。

そのため、これまで財団は親が収入を得るための技術研修等の支援に取り組んできました。

事業の目的

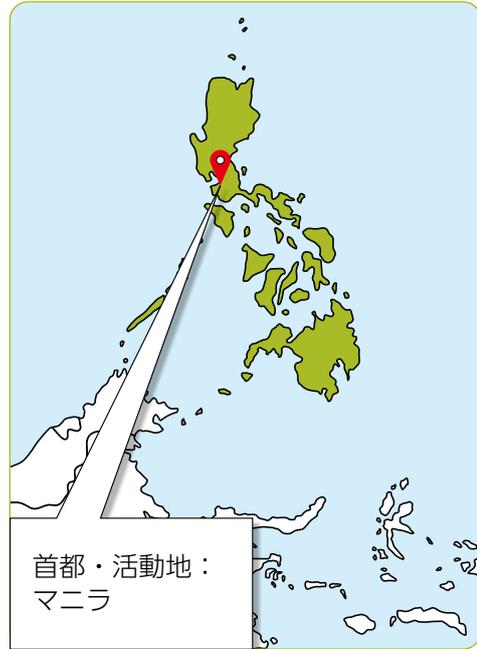
今回の助成事業では、財団のシェルターで生活している子どもたちとその家族を対象に、家族の力を強め、貧困による家族の崩壊を予防すること、金融に関する知識を提供し、生計を立て直すことを目的としました。



心理社会的デブリーフィング



オンラインでの金融セミナー



首都・活動地：
マニラ



ヘアカット研修 (2019 年度助成事業)

事業の成果

- 13 人の母親に、心理社会的デブリーフィング（ストレス緩和）セッションを行いました。参加者からは、「悲しみ等の感情を分かち合えてよかった」「自分はひとりではないことに気づいた」といった感想が聞かれました。
- 15 人の母親に、全 3 回の金融に関するセミナーを行いました。初回はオンラインでの開催となりましたが、第 2 回以降は対面で開催できました。経済的自立に向け、家賃の補助や小口貸付協同組合の会費の補助を行い、これらは親たちが子どもたちの将来を考え、貯蓄を始めるきっかけとなりました。

2021年7月10日

心理社会的デブリーフィング・セッション（第1回）

2021年7月17日

心理社会的デブリーフィング・セッション（第2回）

第1回は8人の母親たちを対象に、第2回は5人の母親を対象に行いました。家族セラピストは、母親たちがコロナによるトラウマやストレスを打ち明け、対話するサポートを行いました。活動後、食料支援パックも提供しました。



2021年10月27日

金融セミナー1「基本的な金融リテラシー」

パートナーである小口貸付協同組合「KASAGANA-KA」が家計の基本的な知識、計画や金銭管理についてのセミナーを実施し、15人の母親が参加しました。初回はコロナの影響でオンライン形式での開催となりました。



2021年11月19日

金融セミナー2「小口貸付協同組合のオリエンテーション」

第2回は、小口貸付協同組合のプログラムやサービスについて、どのような利益があるのかを説明しました。第2回は対面形式で開催できました。また、経済的自立をめざし、家賃の補助や小口貸付協同組合の会費の補助も行いました。



2022年1月

金融セミナー3「貯蓄プログラムについての金融リテラシー」

小口貸付協同組合の貯蓄プログラムおよび保険プログラムに登録する機会を提供しました。母親たちが子どもの将来のために貯金を始めることをめざして実施しました。

今後の活動・展望

- 今回対象とした母親たちへの支援を今後も継続していきたいと思っています。
- 2022年度も本助成の支援をいただいております、支援を行う母親を広げながら、子育てや教育、権利保障についての提唱や啓蒙活動を計画しています。

収支報告

全体事業額：342,768円

助成額：328,294円

<主な使途>

- 活動、セミナー開催にかかる経費
(講師謝金、交通費、食費、会場費)
- 補助(家賃、クリスマス食材、小口貸付)

<収入>

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	328,294	
自己資金	14,474	
合計	342,768	

<支出>

項目	金額(円)	内訳
心理社会的デブリーフィング	56,040	食費 21,840 家族増強 7,800 交通費 12,000 会場費 14,400
金融セミナー3回	196,200	食費 75,600 家族増強 27,000 交通費 36,000 会場費 43,200 謝礼 14,400
その他の支援	90,528	家賃補助 30,768 クリスマス食材 28,800 小口貸付協同組合会費補助 30,960
合計	342,768	

注) フィリピンペソ (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート: 1 フィリピンペソ ≒ 2.40 円 (送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



The Philippines

フィリピン共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 30 万km ² (2020 年) 日本の約 8 割
人口 ^{※1}	1 億 958 万人 (2020 年)
人口密度 ^{※1}	363 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{※2}	マレー系が主体、他に中国系、スペイン系等
主要言語 ^{※2}	国語はフィリピン語 公用語はフィリピン語、英語
主要宗教 ^{※2}	カトリック 83%、その他キリスト教 10%、イスラム教 5%
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 109.010 円換算)	1 米ドル = 49.624 フィリピンペソ (2020 年平均) 100 円 = 46.477 フィリピンペソ
平均寿命 ^{※1}	男 67 歳、女 74 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	5.72% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.5 (2020 年)

※1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html>

※3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=PH>

※4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) - Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=PH>

フィリピン修了生（全 23 名）



シスター ジュディ
(第2期)



エリータ
(第3期)



ネリー
(第4期)



ステラ
(第5期)



アイリーン
(第6期)



エレン
(第7期)



フランク
(第8期)



レア
(第9期)



ラモンチート
(第10期)



リアナ
(第11期)



ジョイ
(第12期)



イメルダ
(第13期)



カッチ
(第17期)



マーレーン
(第19期)



ローセリン
(第20期)



ウィルマー
(第23期)



アナ
(第25期)



メラニー
(第28期)



チャリスマ
(第30期)



グレース
(第31期)



ジュリ
(第32期)



エナ
(第34期)



ジュリエット
(第36期)

オンライン学習を通じた 高齢者およびその介護者の生活の質の向上

Thailand / タイ



Supha-R-Pha Ongsakul オンサクル (2期)

児童リハビリテーション発達グループ

高齢者の健康や免疫力向上に関する知識・情報を LINE 等の SNS を活用して広く発信しました。9期生マーリーさんの所属団体との共同事業です。

オンサクルさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第2期 (1985年4月来日)
研修先	あかつき (救護施設)、東京コロニー (授産施設)、中心学園 (養護施設)、なぎさ和楽苑 (特別養護老人ホーム)、旭川荘 (重症心身障害児者施設)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

帰国後、民間児童福祉団体ホルト・サハタイ財団でソーシャルワーカーとして活動し、地域における保健・福祉の向上や家族支援、母子支援、若者の自立支援等に携わりました。2005年からは、スマトラ島沖地震による津波で被災した家族や子どもたちに対する復興プログラムを実施しました。

現在は、児童リハビリテーション発達グループという財団で働いています。この財団は、高齢者世帯になりつつある家庭およびその子どもを支援しており、グループワークなど基本的サービスを提供しています。また、専門家や現場で働くスタッフに対し、社会福祉や児童発達の専門知識を提供しながら助言を行っています。



被災家族に対する
政府の支援についての講習



タイ国王女から
社会福祉貢献の賞状授与



保護者に対する
教育の重要性についての講習

活動地の状況・課題

高齢者のなかには、膝や脚の痛みを抱えながらも適切な処置を行わないケースが多くあります。こうした人びとに必要な知識を提供したいと考えていたところ、新型コロナウイルスの流行により、利用者である高齢者は健康の重要性や免疫力により関心をもつようになりました。



マーリーさんによるコロナ対策研修

オンサクルさんは、代替医療クリニック「バーンサバイ・ヘルスセンター」で活動している9期生マーリーさんに、高齢者に適切な知識を提供する学習プログラムの開発を共同で行うことを提案しました。しかし、オンサクルさんの活動地である南部のプーケット島と、マーリーさんの活動地である首都バンコクは約860kmの距離があります。

事業の目的

そこで、どこからでもアクセス可能な、オンラインでの知識提供プログラムを開発し、オンサクルさんとマーリーさん双方の所属団体の高齢者に、健康や免疫力についての適切な理解と、自身での健康管理を促すことをめざしました。



首都・活動地：
バンコク

活動地：
プーケット



配信用の動画を撮影するマーリーさん

タイ



健康セルフチェックについての画像



チャットでの個別相談

事業の成果

- 情報発信には、タイで多くの人に利用されているLINEを活用しました。約3か月の間に、36,000件以上のメッセージ、228枚の画像、8本の動画を通して、健康や免疫の知識や情報を発信しました。チャットを用いた個別の健康相談にも30件対応しました。
- 167人がバーンサバイ公式のLINEアカウントをフォローし、新たなつながりをつくり出しました。また、情報を得た人の97%がそれを家族や知人などと共有したこともわかりました。
- 今回の知識提供プログラムの開発を通して、オンライン学習は、いつでもどこでも学習できるという長所があることがわかりました。一方で、スマートフォン等の機器やアプリが必要で、場合によっては追加の費用負担が求められることもわかりました。

2021年5月15日

プロジェクトチームの立ち上げ、準備

バンコクのバーンサバイ・ヘルスセンターで、プロジェクトチーム立ち上げのミーティングを開催しました。その後、オンサクルさん、マーリーさん他2人のプロジェクトチームは、月例ミーティングをオンラインで行い、プロジェクトの進捗を報告しました。



2021年5月24日

LINEの運用、広報活動の開始

LINEのトーク画面から次のことをできるようにしました。

- バーンサバイのFacebookを開く
- バーンサバイの活動写真を見る
- 電子書籍を読む
- マーリーさんに個別相談する
- マップでセンターの場所を確認する
- バーンサバイのYouTubeを開く
- 運営者へ問い合わせ



2021年6月14日～2021年9月30日

LINEによる知識・情報の発信

以下のようなコンテンツを発信しました。

- 体内時計 ～朝食の重要性～
- 自分で行う初期の健康チェック
- 自己治療の方法
～ハーブや足湯による健康と睡眠の維持～
- 医食同源
生姜・さつまいも⇒茹でると肺に良い
きのこ⇒消化を助け、がんを予防する
- マッサージと指圧
膝の痛みを緩和する指圧マッサージ
- 適切な姿勢と運動
- バランスを鍛える運動
腕や脚の筋トレによる肺機能の向上、転倒の防止
- メンタル管理
- 病を引き起こす感情
- 新型コロナウイルス感染予防について



今後の活動・展望

- 提供した画像はいつでも見返すことができるようにしています。また、配信した動画もバーンサバイのYouTubeチャンネルでいつでも視聴可能です。
- 健康についての学習には終わりがなく、いわば生涯学習です。新型コロナウイルスが流行している現在、とりわけ自己管理が重要です。感染経験の有無にかかわらず、あらゆる年代の人びとが免疫を獲得し、安心した生活を送れるように、今後も情報提供やオンライン健康相談を行っていききたいと思います。

収支報告

全体事業額：361,390円

助成額：302,598円

＜主な使途＞

- 学習教材作成にかかる経費
(技術者・講師手当、ボランティア交通費、画像編集費)

＜収入＞

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	302,598	
自己資金	3,057	
その他(寄付金)	41,535	
参加費	14,200	
合計	361,390	

＜支出＞

項目	金額(円)	内訳
準備	161,170	技術者手当 53,250 学習教材 53,250 アプリ月額費 24,850 会議費 8,520 ボランティア交通費 14,200 通信費 7,100
知識・情報の提供	142,000	講師手当 28,400 画像等の制作費 28,400 ボランティア交通費 56,800 通信費等 28,400
月例ミーティング	28,400	会議費
報告書の準備	29,820	制作費 7,100 会議費 8,520 ボランティア交通費 14,200
合計	361,390	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 タイバーツ ≒ 3.55 円 (送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



ジェンダーに基づく暴力の予防・対処を目的とした 保護委員会の設立

Thailand / タイ



Ratjai Adjayutpokin ラットジャイ (13期)
善き羊飼いタイ

女性や子どもたちに対する暴力の対応・防止を目的に、コミュニティの住民による保護委員会を組織し、参加メンバーへの研修等を通して、保護の仕組みを強化し、暴力を予防する事業です。

ラットジャイさんの活動紹介

<専門分野> 児童福祉

<日本での研修>

期	第13期 (1996年3月来日)
研修先	小田原愛児園 (保育所)、中心学園 (養護施設)、三愛荘 (精神薄弱者更生施設)、合掌苑 (特別養護老人ホーム)、双葉学園 (養護施設)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

母国では、主に子どもや女性への支援を行っています。

研修生として来日当時は、児童労働問題に取り組む組織に所属し、その後セーブザチルドレンで、地域密着型の子どもの保護システムの開発に携わりました。その後もいくつかの団体において、主に女性や子どもの人身売買からの保護に取り組んできました。

現在も、女性や子どもに対するあらゆる暴力を排除することを目的とした団体「善き羊飼いタイ (The Good Shepherd Thailand)」で、暴力防止の仕組みの確立をめざすプロジェクトを行っています。



セーブザチルドレンでの活動



第6回アジア社会福祉
セミナーに参加



ボランティア活動に参加

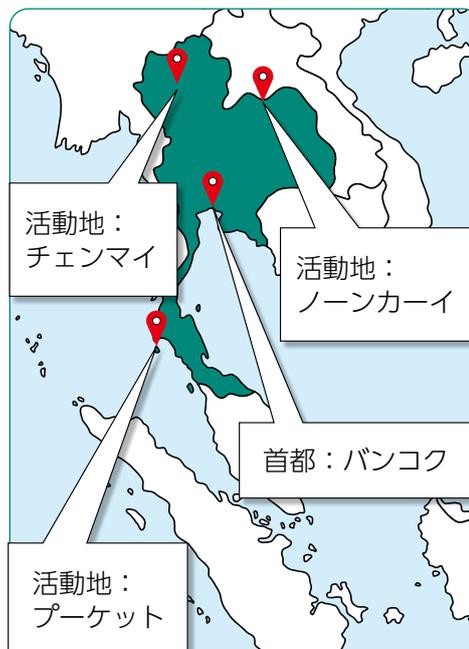
活動地の状況・課題

活動地は、北部に位置する第2の都市チェンマイ、ラオスと接するノンカーイ、世界有数のリゾート地として知られるプーケット島です。

タイでは、家庭内暴力は個人または家庭内だけの問題だと思われ、内密にされる傾向があります。暴力を経験した女性の大多数は、暴力問題に一人で対処しなければならない状況に置かれています。また、家庭内暴力の深刻さはあまり認識されていません。



家庭内暴力を発見した時の対応ワークショップ



事業の目的

上記地域における暴力問題の重大さを知った所属団体「善き羊飼いタイ」は、コミュニティが暴力を予防・対処する能力を高めることをめざし、女性や子どもたちを暴力から守る仕組みを強化するため本事業を計画しました。

事業の成果

- 女性や子どもたちへの暴力の予防・対処を目的とした保護委員会を設立し、123人（男性9人、女性114人）が委員会メンバーとなりました。
- 委員会メンバーは、研修を通して、自分たちのコミュニティで暴力を防ぐための知識や技能を学びました。メンバーは、暴力を発見した場合、当事者と話し合い、前向きなコミュニケーションや感情のコントロール等についてアドバイスを与え、暴力がもたらす問題や影響について理解を促しました。また、家族内のよりよい関係の再構築につなげました。
- 委員会メンバーが発見した暴力を「善き羊飼いタイ（所属団体）」に報告することで、適切な支援につながり、地元当局にも報告されるようになりました。
- 保護委員会は、セーフティネットの仕組みとなり、郡、地区、および州の保護システムに組み込まれました。
- 暴力が見られた家族を対象としたキャンプを行いました。27家族、67人（うち子ども30人）が参加し、暴力を用いずに家族の世話をする方法を学びました。



プーケット当局との調整会議



委員会メンバーに対するワークショップ

2021年7月～11月

保護委員会の設立

コミュニティの住民が研修を受け、プーケットの3つの郡において保護委員会を設立しました。委員会メンバーは、家族開発センターのスタッフ、村のリーダー、保健活動のボランティアおよびコミュニティの住民により構成されました。



2021年7月～11月

委員会メンバーに対する研修ワークショップ（3つの地域で全3回）

行政や地方自治体、NGOと調整会議を重ねて連携しながら、ケースの識別／報告／照会システムに関するワークショップを行い、以下のプログラムを実施しました。

- 家庭内暴力の根本要因、予防・保護の効果と方法、適切なサービスへの照会経路
- 家庭内暴力に関連する法および規制
- 家族内の積極的なコミュニケーション
- 感情のコントロールおよびストレス・マネジメント
- 女性・子どもに対する暴力からの予防・保護のためのネットワークづくり
- 暴力が発生した場合の通知、報告および照会



2021年11月25～26日

家族キャンプ

委員会メンバーによって選抜された家族では、家庭内暴力や体罰、精神的虐待が、とくに子どもたちに対して行われていました。27家族は2日間のキャンプを通して、家庭内暴力の状況、関連する法律、子育ての仕方、コミュニケーション、感情のコントロールやストレス・マネジメントについて学びました。また、「将来の家族」の絵を描きながら、関係の再構築を図りました。



今後の活動・展望

- 保護委員会のメンバーは、今後も自分たちのコミュニティに暴力のリスクがないか、暴力が起きていないか見守る役割を続けていきます。
- 必要に応じて、アドバイスを与えたり、地元当局に照会したり、適切なサービスにつなぎながら、女性や子どもを暴力から守っていきます。

収支報告

全体事業額：533,970 円

助成額：297,675 円

<主な使途>

- 研修ワークショップ開催にかかる経費
(食事・菓子代、研修参加者交通費、講師謝金)

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	297,675	
自己資金	236,295	
合 計	533,970	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
委員会メンバーに対する 研修ワークショップ	236,018	食費 51,067 参加者交通費 72,775 スタッフ交通費 27,335 謝礼 51,482 教材費 24,484 会場費 8,875
家族キャンプ	297,952	食費 275,232 参加者交通費 14,200 スタッフ交通費 8,520
合 計	533,970	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 タイバーツ≒ 3.55 円 (送金日 (2021 年 5 月 18 日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



コロナ禍でのコミュニティにおける子どもたちや住民のための健康促進

Thailand / タイ



Wilasinee Chaepae ウィラー (35期)
タイ・ホリスティック・ヘルス財団

活動地域の子どもたちや住民の健康促進を目的に、キノコ栽培・販売および消費等にかかる支援を行い、コミュニティ内の連携強化を図りました。

ウィラーさんの活動紹介

<専門分野> 児童福祉

<日本での研修>

期	第35期(2018年3月来日)
研修先	至誠学舎立川(児童養護施設、他) 宝山寺福祉事業団(児童養護施設、他)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

タイ・ホリスティック・ヘルス財団は、健康に関する知識・サービス・教育を提供する団体です。施設は多くありますが、保育士が足りないため、ボランティアが施設で活動しており、そのボランティアとのコーディネーターを担っています。3つの児童養護施設と2つの障害児施設を担当しています。



子どもたちに料理を教える



子どもたちの面倒を見る



ボランティアへのオリエンテーション

活動地の状況・課題

申請時は、バンコク市内にある児童養護施設を利用する子どものキャリア・スキル開発と健康促進を目的とした事業（有機野菜栽培に関する研修や食品加工ワークショップ、製品の販売等）を計画していました。しかし、施設で職員と子どもがコロナに感染し、行政当局により施設部外者の活動が禁止されました。



子どもたちの活動を見守る

そのため、バンコクの Banpak Rodfai Kohsrang Rintang Bang Sue 地区（以下、バンスー地区）において、子どもたちや住民の健康促進を目的に、キノコ栽培・販売および消費等にかかる支援を行い、コミュニティ内の連携強化を図る事業に変更しました。

事業の目的

コロナ禍において、コミュニティの住民ボランティアをサポートしながら、子どもたちの健康を促進させる食料を供給するとともに、それらの食料をコミュニティ内で分かち合いながら相互支援を促すことが事業の目的です。



キノコ栽培ハウス作り



甘くサクサクした
乾燥キノコを作るワークショップ



首都・活動地：
バンコク



コミュニティの人びとへの食材販売

事業の成果

- キノコ栽培に関する研修により、参加者はキノコの栽培育成方法を学び、追加で収入を得られるようになりました。また、コミュニティの住民の参加を促すことができました。
- 子どもたちは、キノコ加工や販売に関する3回のワークショップを通じて、付加価値、調理、生活についてのスキルを身に付けました。
- ボランティアとして参加した住民たちが、子どもたちを手伝う姿が見られました。
- コミュニティの中での食料の分かち合いを通して、相互関係を強めることができました。

2021年10月18日 Bansu地区とのミーティング

コミュニティ委員会メンバー、タイ・ホリスティック・ヘルス財団のスタッフ、ワークショップのインストラクターの計10名が参加し、コロナ禍における「コミュニティの児童／成人の健康増進ガイドライン」を策定しました。



2021年10月20日 キノコ栽培に関する研修および研究

インストラクターは、すぐに栽培できて定期的に大量に収穫できるブータン・ヒラタケが収入源となることを紹介し、栽培方法を参加者に教えました。



2021年10月24日 キノコ農場づくりと植え付け

コミュニティの住民たちは麦わら、ベチバー（イネ科のハーブ）、竹などの自然素材を用いて、キノコ用のハウスを作りました。1,000袋のブータン・ヒラタケと100袋の霊芝を植え付け、3～7日で収穫できました。また、散水システムを導入し、毎日朝昼晩に散水して湿度を保ちました。



2021年11月10日・17日・24日 キノコ加工ワークショップ（全3回）

3回のワークショップを通して、キノコの調理方法、加工方法、毒キノコの見分け方を教えました。また、子どもたちによる収穫に立ち会い、助言を行いました。



2021年11月～12月 コミュニティ・キッチンの実施

キノコを収穫後、コミュニティ・キッチンにキノコを提供しました。コミュニティの住民たちが食料を分け合うことで、関係強化を図りました。また、コミュニティへの配布や販売も行い、売り上げはコミュニティの活動やキノコ生産力向上の支援費用に充てました。



2021年12月25日 プロジェクト評価

ミーティングを行い、プロジェクトの評価を行いました。キノコ栽培に影響を及ぼした黒カビについて話し合い、医薬品にも利用でき価値の高いフクロタケや霊芝などを栽培すべきと結論づけました。収入はコミュニティでの活動のための積立金とする、あるいはコミュニティの食料安全保障／開発を目的としたキノコ増産の資金として使うこととしました。



今後の活動・展望

- 家庭菜園で野菜を育てる方法など、コミュニティの住民が自立できるよう、スキルを高める活動を企画します。
- 理論的知識と実践的知識の理解を深め、さまざまな観点から子どもの発達を促進する活動を企画します。

収支報告

全体事業額：302,598 円

助成額：302,598 円

＜主な使途＞

- キノコ栽培にかかる経費
(キノコ用ハウス建設費、原材料費)
- プロジェクトの企画や評価にかかる交通費

＜収入＞

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	302,598	
合 計	302,598	

＜支出＞

項目	金額 (円)	内 訳
バンスー地区とのミーティング	21,300	交通費 17,750 お茶代 3,550
キノコ栽培に関する研修および研究	37,985	講師費 10,650 交通費 15,975 書籍代 1,775 お茶代 9,585
キノコ農場づくりと植え付け	149,100	ハウス建設費 88,750 キノコ原材料費 60,350
キノコ加工ワークショップ	68,693	講師費 31,950 原材料費 36,743
コミュニティ・キッチン開始	847	包装費 847
プロジェクト評価	24,673	交通費 17,750 お茶代 5,325 報告書 1,598
合 計	302,598	

注) タイバーツ (THB) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 タイバーツ ≒ 3.55 円 (送金日 (2021 年 5 月 18 日) の為替レート)

Thailand

タイ王国 基本情報



面積 ^{*1}	約 51.3 万km ² (2020 年) 日本の約 1.4 倍
人口 ^{*1}	6,980 万人 (2020 年)
人口密度 ^{*1}	130 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{*2}	大多数がタイ族。その他 華人、マレー族等
主要言語 ^{*2}	タイ語
主要宗教 ^{*2}	仏教 94%、イスラム教 5%
政治体制 ^{*2}	立憲君主制
1人あたりの国民総所得 ^{*1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{*1} (1米ドル = 109.010 円換算)	1 米ドル = 31.294 バーツ (2020 年平均) 100 円 = 29.310 バーツ
平均寿命 ^{*1}	男 74 歳、女 81 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{*3}	13.54% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{*4}	1.5 (2020 年)

※ 1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※ 2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/index.html>

※ 3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Thailand
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=TH>

※ 4 World Bank Fertility rate, total(births per woman) - Thailand
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=TH>

タイ修了生 (全 28 名)



シリマ
(第1期)



オンサクル
(第2期)



チンタナ
(第3期)



ソムチャイ
(第4期)



サイワルーン
(第5期)



サーダナ
(第6期)



ティーラパン (ノン)
(第7期)



ソムラック
(第8期)



マーリー
(第9期)



ソムリット
(第10期)



ブッサリン (ブン)
(第11期)



ラットジャイ
(第13期)



ラダー
(第14期)



サンチャイ
(第15期)



チャイヤ
(第16期)



ソンパット
(第17期)



ノック
(第19期)



スリヤー
(第20期)



スパワディー
(第21期)



ドゥアンジャイ (ピック)
(第22期)



ラッチャニー (ターイ)
(第23期)



ドキアン
(第24期)



サハッタヤ (フォン)
(第26期)



サオジャイ (トゥン)
(第27期)



ワリー
(第33期)



メイ
(第34期)



ウィラー
(第35期)



ニー
(第36期)

知的障害者のための家内織物プロジェクト

Malaysia / マレーシア



Khor Ai-Na アイナ (9期)
アジア・コミュニティ・サービス (ACS)

知的障害者の在宅での就労環境を整備することを目的として、知的障害者の家庭に織機を提供し、その使い方等を本人や家族に伝える事業です。

アイナさんの活動紹介

<専門分野> 障害福祉

<日本での研修>

期	第9期 (1992年3月来日)
研修先	あかつき (救護施設)、全国重症心身障害者児を守る会 (重度重複心身障害児者通所施設)、なぎさ和楽苑 (特別養護老人ホーム、他)、鎌倉保育園 (養護施設)、くず葉学園 (精神薄弱者更生施設)、進和学園 (障害者施設)、日本障害者雇用促進協会、横浜市総合リハビリテーションセンター、国立身体障害者リハビリテーションセンター、町田市寮育園 (児童発達支援施設)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

研修を修了し帰国後、1996年に現地の日本人と共にアジア・コミュニティ・サービス (ACS) を設立しました。ACSは、とくに知的障害者への直接支援サービスを提供する団体です。マレーシア各州での調査により障害児の行き場がないことが判明し、「障害児がはじめて出会う療育の場づくり」から始め、知的障害者の働く場としての作業所などをスタートさせました。現在も、6歳以下の乳幼児早期療養センター、青年成人の地域生活支援センター、自立生活ホーム、移動おもちゃ図書館、緊急一時預かり等の活動を継続しています。



ACS を設立



早期療養センター



移動おもちゃ図書館



ACS の作業所

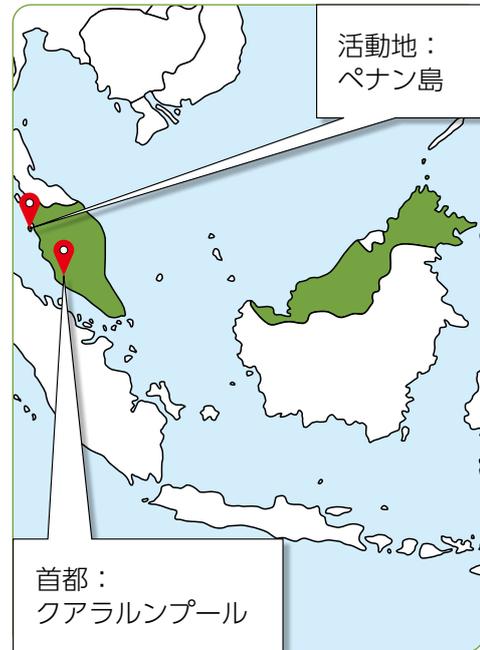
活動地の状況・課題

活動地はペナン島バリックブラウにある ACS 踏み石ワーク・センターです。辺境地に住む知的障害者に働く場所を提供しています。

マレーシアでは 2020 年 3 月以降、新型コロナの大流行によりロックダウンが続き、何度もセンターの活動を中断しなければなりません。活動できない時期が続き、何らかの形で活動を安定させる必要があると判断しました。



センターで織物に挑戦する利用者



事業の目的

外出せず家の中に長時間いると、障害の状況は悪化してしまいます。

そこで、知的障害のあるセンターの利用者宅に折り畳み式または卓上式の織機を運び込み、コロナ禍でも安全に働ける環境を整備することをめざしました。

事業の成果

- 利用者の家に織機が届いたとき、家族から織物について学びたいという反響があり、非常に盛り上がりました。
- コロナ禍でも仕事を継続できることで、利用者の生活は有意義になり、通常の仕事もこなせるようになりました。
- これまで、センターの職員は、知的障害のある利用者が ICT 機器を扱うことに懐疑的で、導入を検討したことがありませんでした。しかし、彼らには機会があれば新しい技術を習得することができるという、職員の認識も変化しました。



織機準備のオンラインワークショップ



家族のサポートを受けながら作業するようす

2021年2～3月

織機の購入に向けた調査、発注

海外の様々なタイプの織機についてコストや物流などを調べ、ニュージーランドと中国の織機を発注しました。また、個々のニーズに合わせ、適切な業務内容（織物、紙袋作成など）を検討しました。



2021年6～7月

全国的な厳しいロックダウン

2021年7月

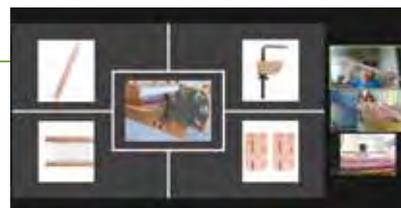
在宅での仕事にかかるサポートの検討

各家庭でのインターネット接続の可能性および安定性を調べました。あわせて、家族による技術的なサポートの可否についても調査しました。

2021年8月

オンラインでの訓練ビデオおよびマニュアルの開発

発注した織機がセンターに届いた時、厳しいロックダウンの最中でした。そのため、オンラインで段階的に織機の使い方を教える訓練ビデオを開発しました。



2021年9月

織機の配布



2021年10月

織機の準備および使い方等を伝えるためのオンラインワークショップ

開発した訓練ビデオを用いながら、織機の準備方法や織物の技術を家族に伝えるオンラインワークショップを数回行いました。



2021年11月

オンラインでのモニタリング、家庭訪問の開始

オンラインワークショップに十分な環境を準備できる家族は7家族のみでした。その7家族には、トラブル対処やフォローアップ等のサポートをオンラインで継続しました。

11月には地域の移動制限が緩和されたため、十分な環境を準備できずオンラインで繋がれなかった利用者と家族を訪問し、直接サポートを行いました。



今後の活動・展望

- パンデミックはまだ収束していません。メンバーの安全のために、在宅勤務を継続していきます。
- 現在このプロジェクトを利用している人びとに、織機を買い取って自分のものにする機会を提供する「オーナーシップの原則」計画の確立を検討しています。助成金を受けた時のレートで織機を購入してもらい、そのお金でさらに多くの織機を購入し、他の人びとにも恩恵をもたらすことができます。他にも、織機の分割購入あるいは織機と引き換えに織り上げた布地を渡してもらうようにすることもできます。これは、誇りと尊厳に加えて、知的障害のあるメンバーが自分の持ち物を大切に、責任をもつことにつながるでしょう。

収支報告

全体事業額：324,715 円

助成額：317,911 円

<主な用途>

- 機織り機の購入

<収入>

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	317,911	
自己資金	6,804	
合 計	324,715	

<支出>

項目	金額 (円)	内 訳
織機フレームの購入	14,246	5 セット
24 インチ卓上織機と付属品の購入	209,053	5 セット
32 インチ卓上織機と付属品の購入	101,416	2 セット
合 計	324,715	

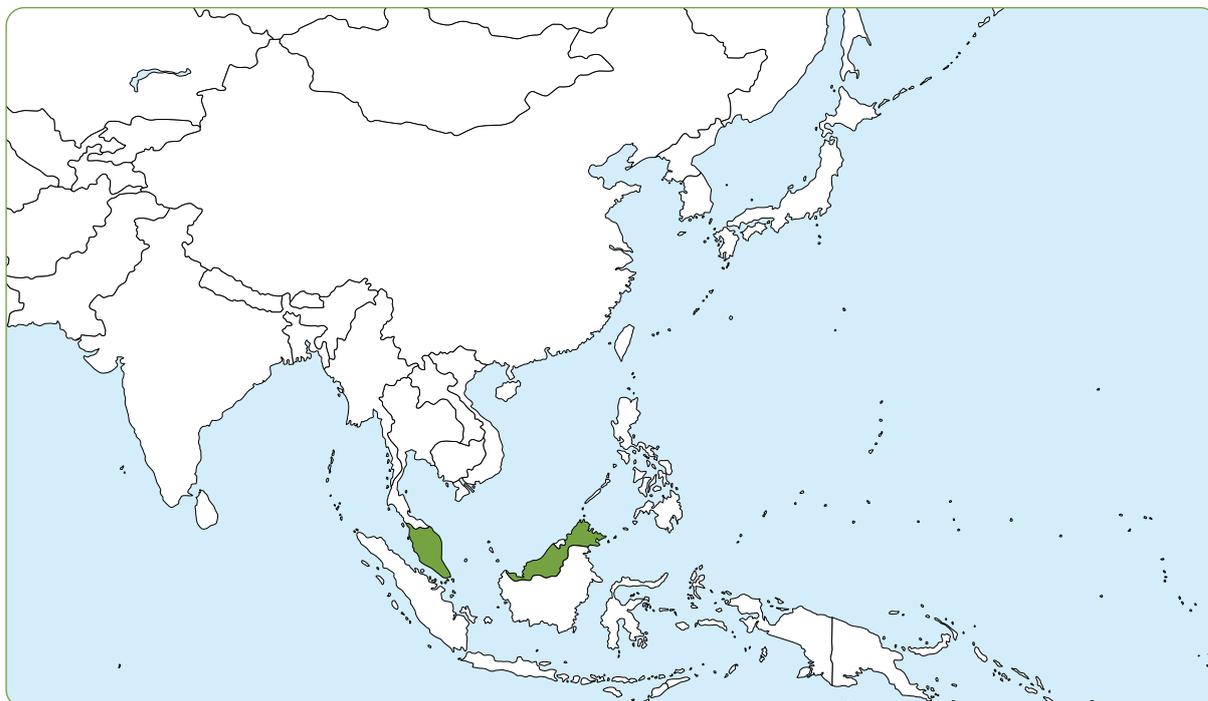
注) マレーシアリングgit (MYR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 マレーシアリングgit ≒ 27.77 円 (送金日 (2021 年 5 月 18 日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



Malaysia

マレーシア 基本情報



面積 ^{*1}	約 33.1 万km ² (2020 年) 日本の約 0.9 倍
人口 ^{*1}	3,237 万人 (2020 年)
人口密度 ^{*1}	99 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{*2}	マレー系 (約 69%), 中国系 (約 23%), インド系 (約 7%) (注: マレー系には中国系及びインド系を除く他民族を含む)
主要言語 ^{*2}	マレー語 (国語), 中国語, タミール語, 英語
主要宗教 ^{*2}	イスラム教 (連邦の宗教) (61%), 仏教 (20%), 儒教・道教 (1.0%), ヒンドゥー教 (6.0%), キリスト教 (9.0%), その他
政治体制 ^{*2}	立憲君主制 (議会制民主主義)
1人あたりの国民総所得 ^{*1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{*1} (1米ドル = 109.010 円換算)	1 米ドル = 4.203 リンギット (2020 年平均) 100 円 = 3.936 リンギット
平均寿命 ^{*1}	男 73 歳, 女 77 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{*3}	7.45% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{*4}	1.97 (2020 年)

※ 1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※ 2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/index.html>

※ 3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Malaysia
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=MY>

※ 4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) - Malaysia
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=MY>

マレーシア修了生（全 10 名）



クリス
(第7期)



パーマ
(第8期)



アイナ
(第9期)



カラデヴィ
(第10期)



スティーブン
(第11期)



フォージア
(第13期)



サリナ
(第16期)



ヒー ヒョン リョン
(第20期)



ビバリー
(第32期)



フィフィ
(第36期)

孤児院「少年の家」の運営

Sri Lanka / スリランカ



Mahaladuwe Nandarata ナンダ (8期)

スリスガタ地域開発財団

コロナ禍において、孤児院で暮らす子どもたちの日々の成長を支え、安心・安全に過ごすための環境を維持しました。

ナンダさんの活動紹介

<専門分野> 児童福祉

<日本での研修>

期	第8期 (1991年3月来日)
研修先	鎌倉保育園 (養護施設)、なぎさ和楽苑 (特別養護老人ホーム、他)、国府台聖愛乳児園 (乳児院)、くず葉学園 (精神薄弱者更生施設)、あかつき (救護施設)、誠信会 (養護施設、他)、天竜厚生会 (保育所、他)
フォローアップ研修	期 間：2016年10月20日～11月17日 研修先：旭川荘 (障害者施設、他)



※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

スリスガタ地域開発財団は、寺院で子どもの支援や社会開発を行う団体で、孤児院、精神障害児の学校、日曜学校、図書館サービス等を行っています。ナンダさんは孤児院「少年の家」を担当しています。

2015～2016年の本助成事業では職業訓練プログラムを充実させ、2018年には知的障害児のためのデイケアセンターを開設しました。



施設の子どもたち



日曜学校



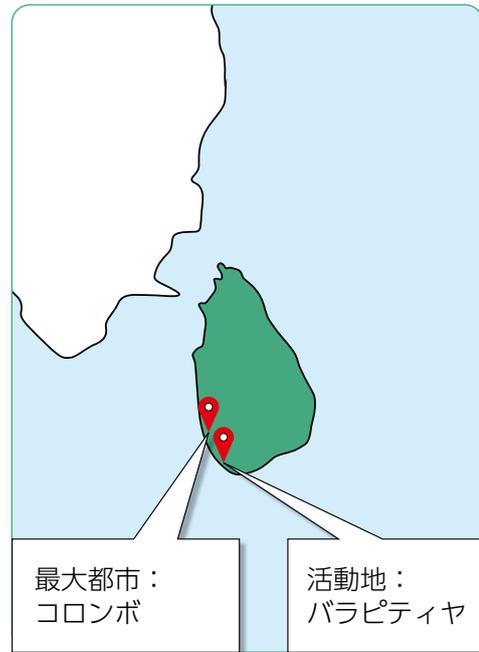
デイケアセンターでの野菜販売

活動地の状況・課題

孤児院「少年の家」は、スリランカ最大都市コロンボの南 80km に位置する海岸沿いの地バラピティヤにあります。バラピティヤは、手つかずの自然と美しいビーチがある小さな漁村です。バラピティヤを流れるマドゥ川では、ボートでマングローブに生息する動植物を観察するなどのエコツーリズム（土地の自然や歴史文化を学ぶ観光）が楽しまれています。



「少年の家」の子どもたち

最大都市：
コロンボ活動地：
バラピティヤ

事業の目的

「少年の家」は国内外の賛助者の寄付金で運営されており、22人の少年が生活しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で賛助者の訪問ができなくなったことから、寄付が途切れてしまい、子どもたちの食費等施設でかかる日々の経費を賄うことが厳しくなりました。

事業の成果

- 「少年の家」で生活する22人の子どもたちに1日3回の健康的な食事とおやつを1年間提供することができました。
- 学費と文房具の支援により、1年間適切な教育を提供することができました。
- 医師による健康管理や医薬品にかかる費用の支援により、1年間子どもたちの健康を維持できました。
- 財団で関わる子どもたちと低所得層家族とともにクリスマスパーティーと新年を祝う会を行い、子どもたちや家族との交流を深めました。



クリスマスパーティー



新年を祝う会



「少年の家」で絵を描く子どもたち



クリスマスパーティー



ミルクライスのケーキとお菓子で新年会

収支報告

全体事業額：795,832円

助成額：297,600円

<主な使途>

- 孤児院の子どもたち22人が1年間健康的な生活を送るための食費
(1日3食とおやつ)
- クリスマス・新年会開催にかかる経費
(飲食代、プレゼント代)

<収入>

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	297,600	
自己資金	186,000	
補助金	64,232	
寄付金	248,000	
合計	795,832	

<支出>

項目	金額(円)	内訳
食糧	392,832	子ども1人分の1日あたりの食費 朝食(パン、ミルク、フルーツ) 12.4 昼食(ごはん、肉・魚のカレー) 15.5 おやつ(お茶、お菓子) 6.2 夕飯(ごはんまたは麺) 15.5
教育	260,400	子ども22人分(1か月あたり) 学費 6200 文房具 15,500
医療	62,000	医師手当 14,880 医薬品 35,960 交通費 11,160
クリスマス・新年会	80,600	飲食代 46,500 飾りつけ 9,300 プレゼント 24,800
合計	795,832	

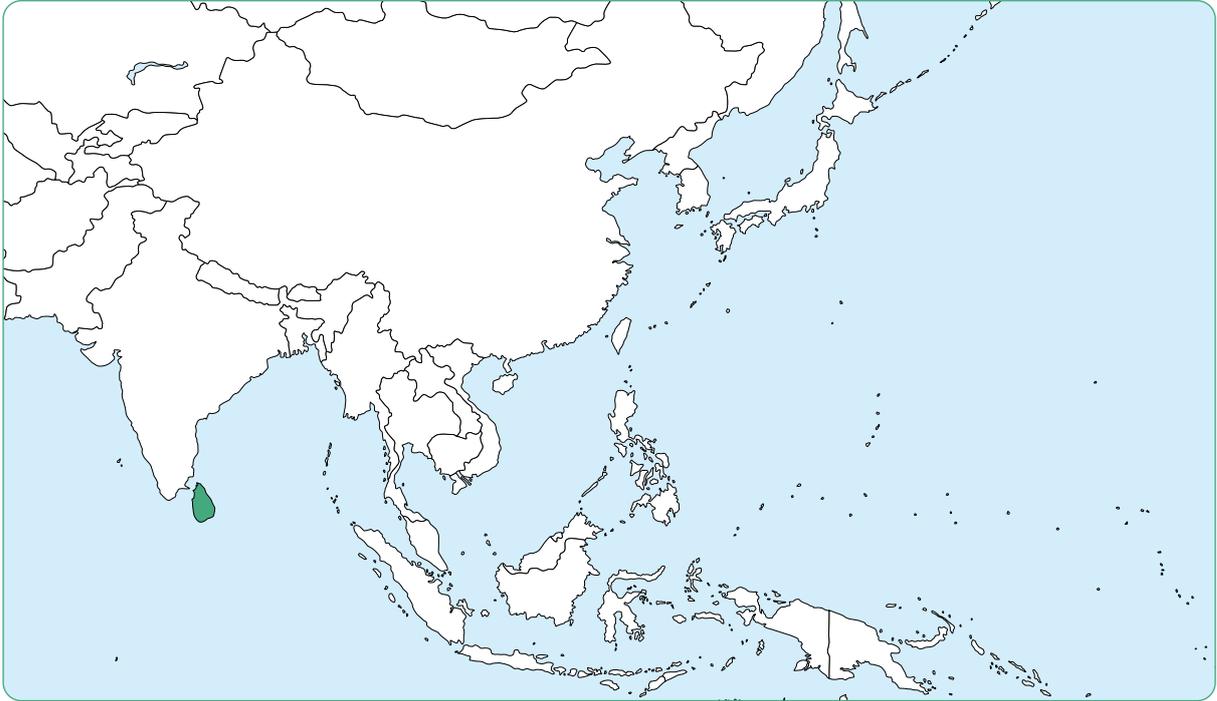
注) 送金額(日本円)と受領額(LKR)から算出(送金日2021年5月18日)
換算レート: 1スリランカルピー(LKR) ≒ 0.62円

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



Sri Lanka

スリランカ民主社会主義共和国 基本情報



面積 ^{*1}	約 6.5 万km ² (2020 年) 北海道の約 0.8 倍
人口 ^{*1}	2,141 万人 (2020 年)
人口密度 ^{*1}	334 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{*2}	シンハラ人 (74.9%)、タミル人 (15.3%)、スリランカ・ムーア人 (9.3%) (一部地域を除く値)
主要言語 ^{*2}	公用語 (シンハラ語、タミル語)、連結語 (英語)
主要宗教 ^{*2}	仏教徒(70.1%)、ヒンドゥ教徒(12.6%)、イスラム教徒(9.7%)、キリスト教徒(7.6%) (一部地域を除く値)
政治体制 ^{*2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{*1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{*1} (1米ドル= 109.010 円換算)	1 米ドル= 185.593 スリランカルピー (2020 年平均) 100 円≒ 173.825 スリランカルピー
平均寿命 ^{*1}	男 74 歳、女 80 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{*3}	11.63% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{*4}	2.17 (2020 年)

※ 1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※ 2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/index.html>

※ 3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Sri Lanka
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=LK>

※ 4 World Bank Fertility rate, total(births per woman) - Sri Lanka
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=LK>

スリランカ修了生（全 22 名）



アマラコーン
(第1期)



セートウンガ
(第2期)



ウィラコーン
(第3期)



アーリヤダーサ
(第4期)



ニラーニ
(第5期)



チャンパ
(第6期)



チャンピカ
(第7期)



ナンダ
(第8期)



シャーンタ
(第9期)



ペレーラ
(第10期)



ブディ
(第12期)



ウィジェー
(第14期)



ジーワ
(第15期)



ツシタ
(第17期)



ニシャーンタ
(第19期)



ウディタ
(第20期)



クマリー
(第22期)



サンジーワ
(第23期)



アルナ
(第26期)



ナーラダ (現バンダーラ)
(第29期)



ブラディーブ
(第31期)



マドゥ
(第33期)

所得創出とソーシャルサービスの提供および 子どもたち／成人／高齢者の健康増進

Indonesia / インドネシア



Yayat Hidayat ヤヤット (22期)

光の地域福祉財団

子どもたち、高齢者、失業者、主婦等を対象に、所得向上プログラムやソーシャル・ヘルスサービスの提供、ストレス・マネジメントを行う事業です。

ヤヤットさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第22期 (2005年3月来日)
研修先	阿部睦会 (特別養護老人ホーム) みなと寮 (救護施設) 天竜厚生会 (障害者施設、他)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

研修生として来日した当時は、地域住民に栄養や健康についてのプログラムを提供する団体に所属し、地域のリーダーやボランティアに対して保健衛生についての指導を行っていました。

現在所属している光の地域福祉財団も、子ども、成人、高齢者を対象に、社会サービスや医療サービスを提供する機関です。また、低所得家庭向けの環境づくりや経済的なサポートも行っています。ソーシャルワーカーとして、社会的状況の評価、職員のトレーニング、プログラムのモニタリングや評価等に携わっています。



母親への健康管理研修



健康管理官とともに
利用者への訪問支援



プラスチックを砕く
機械を使用する様子

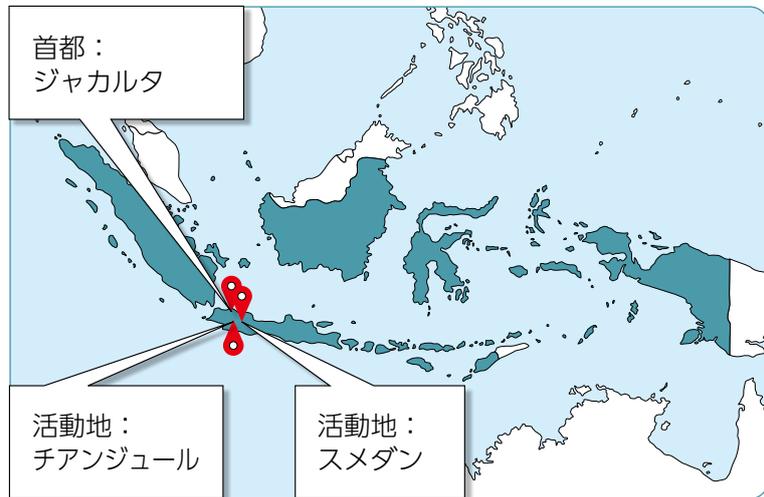
活動地の状況・課題

対象地域は西ジャワ州のスメダン県にあるチマラカ郡シティムン村とチアンジュール県にあるカラントウンガ郡マレベル村です。

シティムン村は、2.13km²、人口は5,696人です。農村地帯にあり、人口のほとんどは農民です。

マレベル村は、2.14km²（うち0.9km²は湿地）、人口は15,181人で、人口密度が高い地域です。

新型コロナの影響で、多くの地域住民そして家族の収入が減少し、ストレスが増加しました。



事業の目的

彼らの所得を増やすこと、健康増進を図ることがこの事業の目的です。

シティムン村では5人の山羊飼い、50人の子どもたち、10人の高齢者を対象に、マレベル村では、62人の子どもたち、96人の成人、66人の高齢者、10人の主婦を対象に事業を行いました。



高齢者へのヘルスサービスの提供



山羊小屋のモニタリング



ヘルスサービス

事業の成果

- 牧畜技術の訓練プログラムにおいて、利益を折半する約束で預かった山羊を育てることにより、牧畜従事者の世帯収入を増やすことができました。
- 10人の主婦が縫製訓練プログラムに参加し、縫製技術を身につけました。
- 28人のサービス利用者がストレス・マネジメントのための催眠療法活動に参加しました。
- 95人の子どもたちと成人が、ソーシャルサービスやヘルスサービスを利用しました。
- 76人の高齢者が、ソーシャルサービスやヘルスサービス、宗教活動に参加しました。
- 6人の高齢者が手工芸品制作の訓練プログラムに参加しました。これにより手工芸品を販売し、追加の収入を得られるようになりました。



手工芸品制作の訓練



パイプで作った花瓶

**2021年2月～
関係者ミーティング**

事業に関わる人びととのミーティングを行いました。この関係者ミーティングは3月、8月、12月、2022年3月にも開催しました。

また、縫製、牧畜、手工芸品制作の訓練や、催眠療法を実施するための指導者、場所等の地域資源を調査しました。



**2021年4月～2022年3月
催眠療法の活動**



**2021年4月～2022年3月
高齢者のためのソーシャルサービス**

宗教活動やスポーツ等、高齢者が心身ともに健康的な生活を送るために必要な支援を提供しました。



**2021年5月
主婦への縫製訓練**

働いていない主婦に対し、服の縫製を学ぶ機会を提供しました。服を製作・販売することで家庭の所得の向上をめざしました。

**2021年6月
牧畜技術の訓練**

**2021年6月
手工芸品制作の訓練**

**2021年6月～2022年3月
ヘルスサービス活動**



**2021年6月・12月・2022年3月
モニタリング・評価ミーティング**

事業の実施状況のモニタリング、評価のためのミーティングを行いました。12月、2022年3月にも実施しました。

今後の活動・展望

- 主婦のための縫製訓練プログラムをさらに発展させ、マーケティング力も向上させる必要があります。
- 手工芸品制作プログラムは、マーケティングが容易であり、より発展させていきたいが、さらに多くの資金が必要となります。
- 新型コロナの長期的な影響から、多くの家庭で収入が減少したため、支援先を拡大していく必要があります。

収支報告

全体事業額：898,576 円

助成額：400,462 円

<主な使途>

- 所得を増やすための訓練にかかる経費 (材料代、謝金)
- 牧畜技術の訓練にかかる経費 (山羊の購入費、山羊小屋の準備費)

<収入>

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	400,462	
自己資金	119,400	
協働財団の資金	49,700	
村からの寄付	29,820	
廃棄物製品売上	26,838	
山羊売上	238,560	
手工芸品売上	33,796	
合計	898,576	

<支出>

項目	金額(円)	内訳
関係者ミーティング	51,688	全4回
縫製訓練	119,280	ミシン3台 89,460 材料 14,910 謝金 14,910
手工芸品制作訓練	69,580	材料 49,700 謝金 19,880
牧畜技術の訓練	124,250	山羊小屋 19,880 山羊4頭 79,520 謝金(全2回) 19,880
ヘルスサービス	198,800	栄養食品 300パック 149,100 謝金 49,700
高齢者へのソーシャルサービス	83,496	参加者 76名
催眠療法	84,490	椅子 10脚、その他
モニタリング・評価ミーティング	8,946	10名(全3回)
支援スタッフ手当	79,520	1名(8か月分)
その他備品	78,526	マスク、文房具等
合計	898,576	

注) インドネシアルピア (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 インドネシアルピア ≒ 0.00994 円
(送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



第2回コミュニティ／高齢者／障害者のための 新型コロナウイルス予防プログラム

Indonesia / インドネシア



Nandang Noor Rachmat. H ナンダン (23期)

サウダラ・セジワ財団

特別支援学校やコミュニティの子ども、障害者、高齢者を対象に、新型コロナウイルス感染予防のための消毒活動、カウンセリング、動画やポスターによる啓発活動、食料・マスク・消毒剤等の緊急支援を実施する事業です。

ナンダンさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第23期 (2006年3月来日)
研修先	くず葉学園 (知的障害者更生施設) 光明会 (知的障害者更生施設、他)
フォローアップ研修	期間：2012年5月26日～6月22日 研修先：興望館 (保育所)、晴翔会 (保育所)
	期間：2017年10月22日～11月19日 研修先：旭川荘 (障害者施設)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

サウダラ・セジワ財団の主な活動は、地域開発と地域教育活動です。子ども保護センター、家族相談・学習センター、地域学習センター、緊急災害対策チーム、障害者プログラム等の機関やサービスがあります。子どもたち、女性、高齢者、障害者、そしてコミュニティのために、ボランティアと協働しながらさまざまな支援を行っています。これまで、本助成事業の支援により、幼児教育センター、コミュニティへの防災訓練、難民キャンプにおける児童のトラウマ回復といった事業も行いました。



地域のラジオで
社会福祉について説明



障害児の親へ
子育てについての講演



ボランティアへの指導

活動地の状況・課題

活動地バンドゥンが位置する西ジャワ州はインドネシアで2番目にコロナ感染者が多い地域です（申請当時）。子どもたち・高齢者・障害者は、感染予防に関する情報や利用できる医療保健サービスが十分ではありません。また、学校やコミュニティにおいても安全が保障されておらず、新型コロナウイルスは大きな脅威となります。



プログラムを実施するトレーナーへの研修

事業の目的

バンドゥンにおいて、公的な支援が行き届いていない子どもたち・高齢者・障害者を新型コロナウイルス感染から守ることがこの事業の目的です。

特別支援学校や住居等の施設の清掃と消毒、感染予防の正しい知識や物品の提供、オンラインによるさまざまな支援サービス等を行いました。

事業の成果

- 特別支援学校や住居の消毒作業により、コミュニティの子どもたち・高齢者・障害者が安心して施設を利用することができました。
- 感染予防対策に関するポスターを貼り、パンフレットを配布したことで、感染予防に対する意識の高まりが見られました。
- 政府からの支援を受けていない高齢者や障害者150名に、1か月分の食料・マスク・アルコール消毒剤を提供しました。
- カウンセリングを行う支援者への研修により、ストレス等の心理社会的問題を抱える人びとへの支援の強化につながりました。
- オンラインの活用により社会的な活動に参加できるようになりました。



心理社会的問題を抱えた家族へのグループ支援



コミュニティや保育園の子どもたちへのオンライン学習

2021年4月 準備段階

- プロジェクトを実施するトレーナーへの研修
- 消毒を行うべき特別支援学校およびコミュニティについての調査
- 食料やマスクなどの支援物資を必要とする利用者の調査
- パンデミックにおける心理社会的支援を行うための専門研修



コロナの影響を受けた
子どもたちのデータ収集・調査

2021年4～11月 実行段階

- 特別支援学校、コミュニティの建物や住居にアルコール消毒液を噴霧し、消毒を行いました。この作業は、研修を受けたチームが実施しました。
- 感染を予防しながら生活を送る方法について、パンフレットや動画を作成し、子どもたち・高齢者・障害者に配布・提供しました。興味を引くようなデザインや構成にし、子どもたちや障害者でも簡単に理解できるように工夫しました。
- 障害者に、食料・マスク・アルコール消毒剤を配布しました。
- 新型コロナによる心理社会的影響を受けた利用者のために、相談および支援サービスをオンラインで、対面の場合は感染予防対策を十分に講じながら行いました。
- 地域住民、子どもたち・高齢者・障害者のグループ向けに、ウェビナー、双方向の対話、トークショーなど社交的集まりの場をオンラインで設けました。



カウンセリングを行う
トレーナーへの研修



コロナの影響を受けた
障害者への食料と衛生用品の提供



子ども向けの感染予防対策の動画

毎月 プログラム評価

プログラムをスケジュール通りに進め、成果を確実なものにするために、振り返りと評価を毎月行いました。

今後の活動・展望

パンデミックはまだ収束していません。子どもたち・高齢者・障害者などの弱い立場にある人びとの保護と支援を継続していきます。

収支報告

全体事業額：394,940 円

助成額：389,705 円

＜主な使途＞

- 消毒作業にかかる費用
(トレーナーへの訓練にかかる会場費、食費、参加手当、防護用品)
- 政府の支援を受けていない障害者へ提供した食糧・マスク・アルコール消毒剤等

＜収入＞

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	389,705	
自己資金	5,235	
合計	394,940	

＜支出＞

項目	金額(円)	内訳
トレーナーへの訓練	49,980	会議室費 10,780 トレーナー謝礼 19,600 参加手当 11,760 食事代 4,900 訓練用品 2,940
プログラムの実施	344,960	感染防護用品 23,520 建物消毒用品 35,280 噴霧作業チーム手当 36,260 リーフレット 19,600 衛生用品 117,600 食料支援 73,500 交通費 24,500 文書作成費 14,700
合計	394,940	

注) インドネシアルピア (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 インドネシアルピア ≒ 0.0098 (送金日 (2021年4月30日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



職場での新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた労働安全衛生（OSH）研修

Indonesia / インドネシア

Yuni Kurniyatiningsih ユニカ（25期）
CNV インターナショナル



労働者の能力養成を目的に、織物工業に従事する労働者と経営者を対象に、職場でのコロナ禍における労働安全衛生の向上や働きやすい職場環境について理解を深めるための研修を実施しました。

ユニカさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第25期（2008年3月来日）
研修先	逗子ホームせせらぎ（特別養護老人ホーム） くず葉学園（知的障害者更生・授産施設） みなと寮（救護施設、他）

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

研修生として来日した当時は、親のいない子どもや高齢者への支援、地域開発を行う財団に所属し、小口貸付プロジェクトを担当していました。

現在所属しているCNVインターナショナルは、オランダの全国労働組合総連合会CNVの一組織であり、低中所得国の労働組合と協力しながら、発展途上国のディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を実現することを使命としています。インドネシアにおいては、西ジャワ州にあるYayasan Dialog Sosial（社会対話財団）とともに、労働者の能力開発に向けた社会対話を促進することを目的として、労働組合、経営者団体、政府（労働省）と協働しています。



零細事業者向けのワークショップ



「地元の潜在力マネジメント」
をテーマにした研修



ハーブ生産者・販売者との
ミーティング

活動地の状況・課題

西ジャワ州の6つの地域にある織物工業事業所では、労働者が公共交通機関を利用して通勤しているため、新型コロナに感染するリスクが高く、家族やコミュニティに蔓延させる可能性もあります。また、これまでの労働安全衛生では、安全面にのみ焦点が当てられており、感染症に対応した健康管理システム等の労働衛生を改善する必要があります。



事業の目的

本事業の目的は、織物工業に従事する労働者40名の能力養成です。コロナ禍での労働安全衛生リスクに関する研修を行い、それぞれの職場において労働安全衛生上の問題を調査・分析することをめざしました。

また、研修を受けた労働者が身につけた知識やスキルをそれぞれの職場や家庭、コミュニティで広めることで、さらに多くの人びとが研修の恩恵を受けることができます。



労働組合と経営者団体のための
社会対話の研修トレーナー

事業の成果

- 企業全体で活発に議論できる関係（社会対話）を築き、また強化することによって、コロナ禍での労使関係をいかに持続させるか学び合うことができました。
- コロナ禍における職場での労働安全衛生に関する適切な情報と管理方法について学び、労働者の知識の向上につながりました。
- コロナ禍による職場での心理社会的リスクと、それを克服するポイントについて理解を深めました。



実施経過

研修は、2021年9月21日にバンドゥン市内ホテルで行われ、以下の3つのセッションを行いました。

セッション1

企業全体での社会対話の強化によるコロナ禍の労使関係の持続可能性

新型コロナの影響を企業全体で力を合わせて克服するためには、雇用者と労働者または労働組合との間で行う社会対話を強化することが推奨されます。その社会対話は、雇用者と労働者がパンデミックによる影響を乗り越えるために団結し、話し合うことを意味します。これが、パンデミックにおいても事業を継続するために求められることです。

セッション2

職場での労働安全衛生に関するリスク管理

労働者への感染を防ぐために、重要なポイントがいくつか示されました。

- 労働者が、労働開始14日前から感染者との接触歴、海外渡航歴、症状がないことを申告書に記載する。
- 感染の疑いのある人の作業場への立ち入りを禁止する。(体温や症状の有無を確認するフォームを作成する)。
- 必要に応じて定期的な清掃と消毒を行う。
- 水道で石鹸を用いて手を洗うための設備と機会を提供する。
- 作業区域の十分な換気と日照を確保する。
- 労働者が集中する場所では、物理的な距離感を取りやすいように配置換えを行う。
- 仕事の種類と需要に応じ、マスク等の個人用保護具を提供する。

セッション3

職場でのコロナ禍による心理社会的問題の理解

政府(労働省)より、新型コロナパンデミックの心理社会的影響を軽減するために、ニューノーマルに準じた労働安全衛生基準を採り入れる手順や方法が示されました。企業はこのパンデミックが終了するまで、新しい労働安全衛生基準を設定することが推奨されました。



今後の活動・展望

私たちは企業レベルでの社会対話を注視していきます。そのために、各企業での労働安全諮問委員会を通して、引き続きモニタリングとフォローアップを行っていきます。

収支報告

全体事業額：400,462 円

助成額：400,462 円

＜主な使途＞

- 研修開催にかかる経費
(スタッフ・参加者の交通費、会場費)
- 宣伝用の映像の製作費

＜収入＞

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	400,462	
合計	400,462	

＜支出＞

項目	金額(円)	内訳
講演者謝金	44,730	3名
交通費	191,842	スタッフ8名、参加者51名
会場費	74,550	
宣伝用映像制作	49,700	
印刷費	10,238	配布資料60セット 発表原稿
動画編集訓練費	9,940	
雑費	17,539	背景幕、文房具、認定証額縁等
茶菓子代	1,923	
合計	400,462	

注) インドネシアルピア (IDR) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記

換算レート：1 インドネシアルピア ≒ 0.00994 円 (送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



Indonesia

インドネシア共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 191 万km ² (2020 年) 日本の約 5 倍
人口 ^{※1}	2 億 7,352 万人 ((2020 年)
人口密度 ^{※1}	141 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{※2}	大半がマレー系 (ジャワ、スンダ等約 300 種族)
主要言語 ^{※2}	インドネシア語
主要宗教 ^{※2}	イスラム教 87.21%、キリスト教 9.87% (プロテスタント 6.96%、カトリック 2.91%)、ヒンズー教 1.69%、仏教 0.72%、儒教 0.05%、その他 0.50% (2016 年、宗教省統計)
政治体制 ^{※2}	大統領制、共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 109.010 円換算)	1 米ドル = 14,582.2 ルピア (2020 年平均) 100 円 = 13,657.6 ルピア
平均寿命 ^{※1}	男 69 歳、女 73 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	6.51% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.27 (2020 年)

※1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/index.html>

※3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Indonesia

<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=ID>

※4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) - Indonesia

<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=ID>

インドネシア修了生 (全 17 名)



ジョノ
(第12期)



ワスジャント
(第13期)



バンバン
(第16期)



スタルディ
(第17期)



ノル
(第18期)



ワワン
(第19期)



ヤヤット
(第22期)



ナンダン
(第23期)



スアルニ
(第24期)



ユニ (ユニカ)
(第25期)



エレナ
(第28期)



ヘニー
(第29期)



サニア
(第31期)



ジョコ
(第32期)



マーチャ
(第33期)



アニサ
(第35期)



イマ
(第36期)

資 料

2021 年度アジア社会福祉従事者研修修了生助成事業 実施要綱

2020 年 12 月 2 日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 国際部

1. 趣旨・目的

本事業は、アジア社会福祉従事者研修修了生（以下「修了生」）が行う社会福祉活動（事業）等への助成を通じて、アジアの社会福祉の発展に寄与することを目的とする。

2. 助成対象及び助成条件

(1) 助成対象

- ・本事業は修了生の活動組織が助成を活用して新しい事業活動を立ち上げたり、様々な福祉ニーズに対応したりすることに資するための助成事業である。団体の日常的な運営等に充てるものではなく、上記の目的に沿った特定の活動への助成であることに留意。新規事業だけでなく、すでに助成を受けた事業で、継続するものや関連するものでも可とする。ただし、同一団体または修了生の連続した申請は2年を上限とする。
- ・2021 年度に限り、新型コロナウイルス感染症の影響により、既存の事業実施や団体運営に支障が生じている場合、その課題の解決や状況の改善に資すると認められる助成申請についても審査対象とする。

(2) 事業の実施者

原則として、以下の活動（事業）を助成対象とする。

- ①修了生所属団体が実施する社会福祉活動（事業）。
- ②修了生グループが協力して行う社会福祉活動（事業）。

(3) 助成条件

以下のいずれの項目も満たしていること。

- ①活動（事業）の目的が明確で、具体的な成果が期待できるもの。
- ②活動（事業）の運営に関して、修了生が必ず関わっていること。
- ③修了生所属団体の代表者が認めたものであること。
助成は、修了生個人ではなく、所属団体に対して行う。
そのため、助成金の受け入れ口座は団体の口座とすること。
- ④期限までに所定の様式により報告が行えること。

*なお、2020 年度に助成を受けた団体については、当該助成事業の事業報告書（事業が完了していない場合は中間報告書）が全社協に提出されていることを条件とする。

(4) 助成対象者、助成事業実施団体の責務

- 修了生は、事業の実施者（担当者）として責任を負う。
- 国際部への連絡、申請書、事業報告書等の書類の提出は、修了生の仕事とする。国際部からの照会に対しては、可及的速やかに回答すること。
- 所属団体代表者や施設長には、事業を適正に運営する責任が発生する。
事業の申請書（計画書）・報告書は、団体代表者・施設長が必ず確認し、サインをすること。サインのないものは、申請を認めない。

○助成金は、アジアの社会福祉の向上に心を寄せる日本国内の多くの支援者（個人や福祉団体等）からの拠金によるものである。修了生や所属団体は、それらの支持者の意思に誠実であることが求められる。そのため、助成金の適正な執行、種々の締切日に留意し、中でも支援者に対する事業の成果を適切に行うこと。

3. 2021年度助成金総額

3,000,000円程度を予定。ただし、コロナ禍に伴う課題解決に係る助成申請の状況によっては、総額を上回る額を助成することも検討する。

4. 1件あたりの助成金額

原則日本円で30万円を上限とする。

5. 活動（事業）実施期間

2021年4月から2022年3月までに実施される活動（事業）を原則とする。

次年度以降も継続して行われる事業や1年以上の長期間のプログラムも可とするが、その場合は、あらためて助成を申請し、審査により決定する。

6. 申請者

申請者は母国で福祉活動に従事する修了生とする。

7. 申請・申し込み（手順）

- ・助成を希望する修了生は、別添の①申請書様式に必要事項を記入し、②修了生本人の活動状況がわかる写真を添付のうえ、全社協国際部に提出する。
- ・新型コロナウイルス感染症により、事業の実施または団体運営に生じた課題の解決のための助成は、事業開始や送金の時期について個別に相談に応じる。1月8日の締切前までに詳細について相談されたい。

8. 申請書類の締切

2021年1月8日（金）

9. 審査および結果通知

- (1) 申請案件については、助成金額も含め全社協「国際社会福祉基金委員会」で審査を行い決定する。申請者全てに助成されるわけではないことに留意。
- (2) 審査にあたっては、十分な成果が期待できる活動（事業）であることを重視する。
- (3) 助成の可否については、2021年3月末までに、申請した修了生および修了生が所属する団体の代表者に通知する。なお、審査結果によっては、助成決定額が希望額を下回る可能性がある。

10. 書類の提出

次の書類を全社協国際部に提出すること。

- (1) 助成金を受領したとき : 領収書
- (2) 助成金による事業の終了後 : 事業報告書

11. 連絡先（問い合わせ、申請、書類提出）

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 国際部（担当：今井、佐々木）
Japan National Council of Social Welfare, International Division (Ms. Nao Imai)
4F Shin-Kasumigaseki Bldg., 3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
Tel: +81-3-3592-1390 Fax: +81-3-3581-7854 E-mail: z-kokusai@shakyo.or.jp

■事業実施経過

令和2（2020）年7月	令和2年度第1回国際社会福祉基金委員会にて実施要綱を審議、決定
令和2（2020）年11月	実施要綱の発送
令和3（2021）年1月8日	助成申請の締め切り 申請：16件
令和3（2021）年2月	第2回国際社会福祉基金委員会にて申請の審査承認：10件 不承認：6件
令和3（2021）年3月	審査結果の通知
令和3（2021）年5月	助成金の送金
令和3（2021）年10月	修了生から事業の概要を紹介した動画の提供
令和4（2022）年1月	修了生から事業報告書、決算書の提出

■アジア社会福祉従事者研修 修了生助成事業の実績データ

○事業開始：1997年（平成9年）～

○助成先国別（1997～2021年）

：助成回数（団体数） 金額（単位万円）

韓国	10回（4団体）	395万円
台湾	9回（5団体）	360万円
フィリピン	41回（12団体）	1,209万円
タイ	56回（14団体）	1,619万円
マレーシア	13回（5団体）	385万円
スリランカ	25回（6団体）	685万円
インドネシア	36回（9団体）	960万円
バングラデシュ	4回（1団体）	150万円
	194回（56団体）	計5,763万円

○助成元組織（現在）：

公益財団法人日本社会福祉弘済会、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団、国際社会福祉基金

（過去の助成元）

社会福祉法人社会福祉事業研究開発基金、安田火災ちきゅうくらぶ、霊友会、全国保育士会、上溝保育園、アジア・フレンドシップ・ファンド（AFF）

アジア社会福祉従事者研修 修了生福祉活動助成事業 2021 年度実施報告
2021 JNCSW Grant Program for the Ex-Trainees of Asian Social Welfare Workers' Training Program

2022 年 9 月

発行

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
国際社会福祉基金委員会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL : 03-3592-1390 FAX : 03-3581-7854

Japan National Council of Social Welfare
International Social Welfare Fund Committee

Shin-Kasumigaseki Building,
3-3-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980, Japan
TEL: 81-3-3592-1390 FAX:81-3-3581-7854
E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp

